

9月定例会の一般質問

市民クラブ

地球温暖化対策

問 東日本大震災以降の市役所の電気料金の状況、長崎市地球温暖化対策実行計画における取り組みと効果、政府が決定した温室効果ガスの削減目標への対応について伺いたい。

答 震災前の平成22年度との比較では、市役所の電力使用量は減少しているものの、料金は、基本料金の値上げなどにより約600万円増加している。

実行計画における取り組みでは、計画に基づいた、市民、事業者と協働した各種施策により、市民の節電や省資源の取り組み、再生可能エネルギーの導入が進んでいるものと考えている。

本年7月に政府が設定した新たな削減目標への対応は、今後、検討を進めていきたい。

世界遺産登録後の協働事業

問 キャンペーンや商品開発といった産学官民の協働事業が進められているが、その状況について伺いたい。

答 プロモーション及び情報発信の面では、JＲグループ6社と県内の自治

体、観光事業者等で実施する日本最大規模の誘客キャンペーンを来年度に開催する予定である。また、長崎大学との協働により、軍艦島の3D映像を製作し、インターネットで公開している。

受入態勢の面では、国や県との協働



▲3D映像の軍艦島

により構成資産周辺への道路標識の設置を行っている。そのほかにも、スマートフォンアプリやツアー商品、お土産品の開発などの取り組みを進めている。

今後も、産学官民と協働し、経済の活性化につなげたい。

合併10年経過後の

検証と意見交換会

問 香焼町など7町において、合併による生活環境・行政サービス等の変化の検証や、地域住民との意見交換会を開催する意向はないか。

答 合併後のまちづくりでは、市道の改良や市営住宅の建て替えなど、市民生活の充実に寄与する事業や交流人口の拡大と地域活性化につながる取り組

みを行ってきた。また、各地区において「まちづくり会議」や「市長との地域懇談会」を開催するなど、地域住民と意見交換を行い、合併による地域の現状や課題の変化について確認してきた。今年度にも、合併後10年間の検証を行い、地域の方々への報告や意見交換等を行っていききたい。

旭大橋の低床化

問 再整備が進む長崎駅周辺地区と稲佐地区の連携を強化し、まちなかとして一体的な土地利用を図る観点から、旭大橋を低床化できないか。

答 市と県が共同で策定した、浦上川右岸地区などを含む長崎駅周辺エリアの整備計画には、旭大橋の低床化は、整備を図るべき施設として明確に位置付けている。一方、管理者である県からは、橋は設置から33年経過しているが、補助金上の耐用年数の45年に達しておらず、インフラ施設の長寿命化が全国的な課題となっている中で解体撤去は非常に厳しいと聞いている。



▲旭大橋

しかしながら、市としては旭大橋の低床化は浦上川右岸地区の活性化を図るうえで、必要不可欠と考えているため、今後とも県に対して強く働きかけていきたい。

聴覚障がい者への対応

問 聴覚障がい者が自立した日常生活を過ごすための支援について伺いたい。

答 障害福祉課及び障害福祉センターに手話通訳者を計4名配置し、手続きや相談等の支援を行っている。

また、手話通訳者の養成や派遣のほか、難聴者や中途失聴者など手話を身につけていない方を支援するため、要約筆記者の養成や派遣を行っている。

本年1月から支所、行政センター、障害福祉課を始め、本庁の主要な窓口にてテレビ電話が設置されたため、遠方の方の手話通訳のニーズにも対応できると考えている。

今後も、ニーズに沿った支援の充実に努めたい。

明政クラブ

迷走を続ける大型事業

問 新しい市役所、公会堂、MICEはどのようにするのか。

答 市庁舎は、建て替えること、その場所を公会堂及び公会堂前公園敷地とする方針に変わりはない。市民の安全安心という面から、できるだけ早い時期に予算や条例の提案をしたい。

公会堂は、廃止後の新たな文化施設を県庁舎跡地に整備することについて、県と協議を続けている。県との協議は